

【 さらしなの里 自然発生の羽尾のホタル 】

さらしな(更級)の里は姨捨棚田に至る、中山間地帯で南に冠着山(姨捨山)が聳えています。その頂には7月の中下旬頃にヒメボタルが発生し乱舞する事も有ります。(ヒメボタルは高地性ホタルです。平地では棲息致しません。)

この頂を東に下ると坊城平が有り、続いて下れば仙石の扇状地帯を通り、円光房遺跡と中田遺跡に続いた果樹園の中にさらしなの里歴史資料館があります。右眼下には千曲川と善光寺平が見渡せる風光明媚な所です。そして運が良ければ万葉の昔から詩に詠まれる「月に山とホタル」が鑑賞できます。

冠着山の東側から流れる湯沢川、西側から流れる雄沢川や大池水系の河川と大地にホタルが自然発生しているのです。昭和30年代以前の母なる大地に戻ってくれたのです。昭和30年代以前までは当たり前の出来事でした。自宅の庭でホタル狩りをして蚊帳の中に放して遊んだ事もありましたが、今は絶対にしないでください。

家の前を流れる小川では、鍋や鎌、茶碗、野菜等を洗い井戸水で濯ぐ生活が出来ました。田畑の耕運は牛馬で稲作、麦作、養蚕、果樹は在来種のアズキやリンゴと柿で葉タバコ等が主な農業でした。作業は殆どが手作業です。こういう産業(農業)や生活環境の中でトンボ、セミ、チョウチョやホタル、イナゴ、バッタ等が、また川の中にはシジミやドジョウ、カジカ、フナ、オイカワ、ゲンゴロウ、ミズスマシ等々、数えきれない小動物が棲息していました。住みやすい環境だったのです。昭和30年の終わり頃に東京オリンピックが開催されると開発が進んできました。まず、農業の近代化が進み、農業機械が導入され堆肥(人畜糞尿)から化学肥料や農薬に大きく変わり、収量も増えて少しずつ生活も楽に成り、大都会に就職しなくても地元の企業が送迎バスで送り迎えしてくれました。間もなくバイクや乗用車で通勤する人が多くなります。量産、使い捨ての時代に突入してしまい、これに慣れてしまいました。追い打ちを懸けるのが稲作の病虫害駆除と松枯れ防止の空中防除である。蚊やアブ、蜂に刺される事が少なくなりましたが、先に上げた昆虫や水生動物等特にホタルが絶滅したかのように居なくなり、忘れられてしまいました。長野冬季オリンピックが決まると新幹線や高速道路等、国家的プロジェクトの開発が身近に進んできました。また、農地の区画整理が進み、先祖伝来の土地を新型重機で大きな田畑に区画整備され、堰や小川が真っ直ぐに作り直されました。これで流れが急峻になり、昆虫や水生動物は2度目の災難で棲みにくく成りました。平地の川は必要な時だけ水を流すようになり、稲の収穫が終わると泥沼化して悪臭を放ちます。長野冬季オリンピックを迎える頃から生活の見直しが叫ばれて使い捨てに気づき、住民に出来る事は何かと地元を流れる河川の清掃が各地で始まりました。そして生活水を井戸水から水道水に、住民に大きな負担の掛かった下水道工事が始まり、都市ガスも敷設されて生活向上に直結する開発が進み、我々も生活向上の恩恵を受けられる様になりました。これを機に空中散布が見直されるようになり、稲や果樹の消毒も弱性の物に変

わり始め散布回数も減少に向かいました。こんな動きの中、各地で川の清掃や農薬と除草剤の削減の効果が出始めて川がきれいに成ってくると、沢カニ、ヤゴ、ドジョウの姿を見かけるようになり、カエルの声が大きくなりました。

ある夜隣組の会合の帰りに川べりを歩いていると、向こう岸の草むらの中にホタルを発見したのです。たった1匹ですが棲息していたのです。絶滅していなかったのです。驚きでした。それから川岸を上流下流と日を変えて歩いて見たが発見できませんでした。

時を経て雄沢川のあちこちから「ホタルを見たよ」との驚きの声が聞こえてきました。本当に皆驚きでした。特に何もしておりません。

平成9年頃にはさらしなの里歴史資料館脇を流れる雄沢川の橋の上流、下流に自然発生のホタルが飛翔乱舞です。住民も沸き立ちます。ホテルの観光バスも来ました。素晴らしい光景です。ホタル観賞観光が始まりました。でも長く続きませんでした。3年位過ぎると、人も減り観光バスも来なくなりました。嘘のようにホタルが激減してしまったのです。「ナゼ、ナゼ」でした。これを機に観察とか見回りを始めました。少し離れた湯沢川にも何ヶ所かホタルが発生しておりました。心ある人達や先輩方も観察を始めておりましたが、ホタルの発生数が増えませんが少し続いたが諦めた様です。

この頃誘われて【千曲市環境市民会議】に入会しました。この中に千曲市ホタル連絡会というプロジェクトがありホタル観察会が7グループありました。その他の活動も8プロジェクトが活動しておりました。

後に【千曲市環境市民会議】が【NPO法人千曲市環境市民会議】に移行します。この中で羽尾のホタルの観察も1人の活動では手狭に成りまして、川岸に近い人やホタル観察に興味のある人や子供やお孫さんがいる人に頼み込んで【羽尾ホタル観察仲間】を結成しました。この中に働き盛りの若い人が何人か協力してくれて心強かったです。観察仲間の人達も良く協力して頂いておりましたが10年以上も活動していますと、仲間の年齢やお子さんやお孫さんも成長して続けられなくなった人が出て、会員の入れかわりもありました。それで活動が出来なくなった人達にはオブザーバーとして会に残って頂いております。名称も【羽尾ホタル観察の会】に改称をしました。

観察仲間と観察を始めて16年が過ぎております。観察期間中に毎夜観察した発生数は観察表に記録して週1回、回収して市のホームページに投稿してきました。「さらしなの里自然発生の羽尾のホタル」は昭和30年代以前の自然発生のホタルです。絶滅していませんでした。棲息していたのです。観察地点は本田、和合、原、御麓、青木、藤ノ木、吉野、日向、源徳、上三島、須坂、仙石の12地区あり、その中の27地点（ポイント）に25名の観察員が観察担当をして頂いておりますが、観察地点によっては期間中に10数匹の所や0匹の所もありましたが、観察員さん達は粘り強く継続しています。そしてホタルも強いです。大荒れに荒れて護岸や川底の大工事が行われても、風雨であっても発生数が0匹の時はありませんでした。この様に広い地域の観察記録を16年間続けて発表出来るようになりました。「さらしなの里自然発生の羽尾のホタル」です。鑑賞される方々にお願ひがあります。ホタ

ル川は農道脇で人家がすぐ隣にあり道が狭く駐車場は限られています。騒音や減光にご協力をお願い致します。千曲市には羽尾の他に「八幡ホタル、協和ホタル」と自然発生している地区があります。幼虫発生ですが「杏の里ホタルの会、内川ホタルの会、古墳館沼ホタルの会」等が飼育、発生観察を続けております。

そして千曲市はどの地域に行ってもホタルの観察観賞が出来るホタルの里です。

明治、大正の先輩が在って昭和、平成、令和の我々は良き千曲市を若い世代に繋いでいきたいものです。

NPO法人千曲市環境市民会議

千曲市ホタルの会 理事

羽尾ホタル観察の会 小河原邦楽